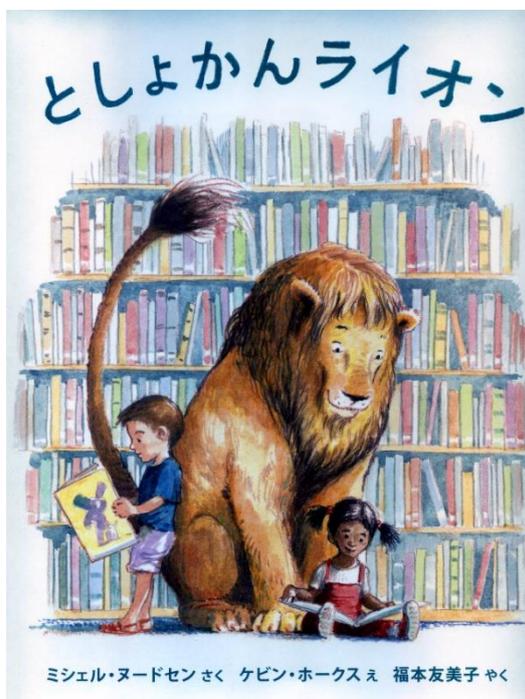


T.K 様

読んだ本の書名：「としょかんライオン」

(ミシェル・ヌードセン 作 ケビン・ホークス 絵 福本 友美子 訳 岩崎書店 2007)



住まいの絵本分類の「マナー（共生）」には、日本初版本がないという。海外の絵本はあるというのに、どうしてだろう？

そのなかから「としょかんライオン」、すてきなお話でした。本当にこんなライオンがいてくれたらいいのに、と思います。子供だけでなく、大人も一緒にゆったりとした時間を過ごせるだろうと。

図書館の「きまり」をまもっているライオン。ケガをしらせるためにおおきなこえでほえたために、きまりをまもれずに、図書館を出ていくライオン。でも、ちゃんとしたわけがあつての行動だったので、また図書館へ戻れたライオン。みんな大よろこび。

この、「きまりをまもれないこともある」ということ、四角四面になりがちな約束事、規則のあり方を、時と場合によっては破ることもあるとっているのがうれしい。